

## [特集Ⅱ]

### 第3コース

## 観るということー心理学的なものの見方

難波 久美子\*・布施 光代\*\*

1. コース設定の主旨と目的
2. 実施経過
3. レポート
4. まとめ

#### 1. コース設定の主旨と目的

本コースでは、心理学研究をベースにした体験学習を行った。日常生活の様々なトピックを取り上げ、それらを実際にその場で体験することで、自分の「ものの見方」を改めて捉えなおす機会とした。また、参加者の様々な反応を比較することで、多様な視点から人間の「ものの見方」の特徴を考察するきっかけとした。2002年度に行われた同名のコースと構成はほぼ同様であるが、一部のプログラム内容・進行を変更した。

第1日目は、情報の入り口である知覚に焦点をあてた。第2日目では、個人の情報処理システムの違いや、情報を受け取るときに、社会・文化的な文脈に影響を受けることに着目させた。第3日目では、「血液型性格診断」を取り上げ、様々な見解を提示したり、異なる立場に立って議論をすることにより、多面的に考察した。

最終的に、自分が関心を持っているテーマについて多面的な見方をし、根拠となる証拠を示し、考察できることをレポートの目標とした。(文責：難波)

#### 2. 実施経過

3日間の実践は、講師2名のチームティーチングによって行われた。全体の流れはTable 1を参照されたい。

##### (1) 第1日目

**プロスペクト理論** パンとジュースをセットにしたときの価格設定として3つの選択肢を用意し、「どれが1番お得だと思うか」を考えさせた。3つの中から1つを選ばせ、その理由も説明させた。最も多く選択された条件について、割引率が大きい方が値引きの価値は大きいと判断されやすいと

\* 名古屋大学大学院教育発達科学研究科研究生

\*\* 名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士後期課程

Table 1 第3コースタイム・テーブル

8月8日		8月9日		8月10日	
内容	教材	内容	教材	内容	教材
<p>ガイダンス 研究調査協力 移動 自己紹介とお約束 導入：身近なところから心理学のネタがいっぱい！ →プロレスベクトル理論について →身近なトピックに注目してみよう</p> <p>◆大根の授業 →身近なところからトピックはいっぱいあるが、なかなか気が付かないもの。見ているようで見えていないことに気付こう。 →心理学的な色んな視点から見よう。</p>	<p>校内のお約束など パン・(ジュース) 種礼 OHC 問頭用紙、OHC 大根</p>	<p>◆心理学について ◆心とは何か ◆大学でどうなっているの</p>	<p>*第4コースと合同</p>	<p>復習とまとめ 第一部：血液型性格診断をどう思うか ◆血液型性格診断を知る ①性格検査 ②ビデオ (あるある40分) ③血液型気になる度チェック ④血液型性格診断に対する自分の考えを書く ◆他の人の考えを知る (グループで) *集計結果を出す</p>	<p>検査用紙 DVD 集計表 チェック表 A4用紙</p> <p>記入用紙 OHC 集計表</p>
<p>知覚：まずは外界の情報を取り入れる 入り口から ◆盲点の実験 ◆錯視 ◆故障二点図 ◆重さの誤認知</p>	<p>DVD 盲点発見用3タイプ 錯視用矢印 記録用紙 つまようじ マッチ箱</p>	<p>◆五感の地図発表 ▽感覚のまとめと導入 認知(個人内)：同じ情報を受け取っていても、個人内で組み立て方が違う 方向音痴プロ ◆外を歩く ◆地図作成 ◆地図の紹介と研究の紹介 ▽まとめ →空間認知(空間の捉え方)を取り上げて、個人内の情報処理(頭の中で情報をどのように処理しているか)の仕方を見えてきた →同じ情報を受け取っていても、その人によって受け取り方や理解の仕方が異なることがある →次は、もう少し視点を広げてみよう</p>	<p>資料⑤</p> <p>◆グループで、ディスカッション ◆意見の変化について</p>	<p>資料⑤ 問い提示 記入用紙</p>	
<p>◆飲み物当てクイズ ◆におい当てクイズ ▽まとめ ◆宿題：五感の地図の作成</p>	<p>飲み物6種類、紙コップ、記録用紙 におい物質5種類の入った小袋、記録用紙 参考資料(松田、2000) A4用紙</p>	<p>認知(文脈)：推す情報の違いによって理解や解釈の仕方が変わってくる ◆文章理解(洗濯物) →導入 ◆4枚カードと変形バージョン(飲酒) →文脈があるか分かる ◆印象形成 →同じ人を見ていても、たった一語で印象が変わってしまう 比較文化 ◆大きな木の朗読 ▽感想を書く ◆感徳の紹介と研究の紹介 ▽1日目2日目のまとめ 一つの事象の中にも、ちょっと見方を変えると、色々出てくる。 心理学では、人に関するところで、色んな見方をして行動を理解しようとする。</p>	<p>第3部：血液型性格診断から考える ▽心理学的な要素を拾う ▽心理学的な変遷(歴史) 最近の動向(心理学と生物学) ▽情報の使い方 ▽全体のまとめ ▽レポートについての説明 調査協力・終了証</p>	<p>OHC</p> <p>レポート要領</p>	

注：記号(●)ビデオ教材、◇受講生単独の作業、◆受講生全体やグループでの作業、▽お話しのみ)

いう“局所的な心理的会計”や、まとめて料金請求された方が損失感が少ないという“コース料金の優位性”について紹介した。これらの例のように、身近な生活の中に心理学のトピックが多々あることを実感させた。

**ダイコンの側根** ダイコンの側根がどのように生えているのか、6つのスケッチ（選択肢）から「正しい」と思われるもの一つと、「ありえないもの」一つを選択させた。次に、選択肢を選んだ理由について説明させた。実際にダイコンを提示して観察した（清水，2000）。

普段は食べ物としてしか捉えていないダイコンについて、〈側根の生え方〉という視点で予想を立てた。また、ありえない生え方という視点からも予想をたてた。次に実物の観察を通して確かめることにより、新たな視点から身近なものを観ると発見があることを学んだ。

**皮膚二点閾実験** 2人一組になって、爪楊枝2本を皮膚に直角かつ瞬間的に当てた。爪楊枝の2点間の距離を次第に長くしていき、初めて2点だと認識したときの距離を記録用紙に記録した。この実験により、同じ皮膚でも体の部位による二点閾の違いがあることがわかった。さらに、玄人の旋盤工が指先だけの感覚で、精密な測定器でも判別が難しい、ミクロン単位の識別が可能であることを紹介した。

**重さの誤認知実験** マッチ箱と重りを使って、重さの誤認知実験を体験した（詳細は、板倉、1977）。この実験をとおして、〈論理的な判断〉と〈からだの感覚〉にズレが生ずることを確認した。

**飲み物当てクイズ（味覚の実験）** 全体を3グループに分けて実施した。目を閉じて鼻をつまみ、飲み物を飲んで、何を飲んだのかを当てていった（Marilyn, 1976）。用意した飲み物は冷やしたコーヒー、水とジュース計6種類であった。人間の味覚が識別できる味の種類や、識別に与える要因を紹介した。

**におい当てクイズ（嗅覚の実験）** においを6種類用意した。各自でにおいの名称を記述し、発表した。においは再認識しやすいものの、何のにおいかを同定するのは困難であること、においの表現を他者と共有することが難しいことを説明した。

**宿題** 視覚だけでなく聴覚・嗅覚・触覚といった五感を使って、部屋の「五感の地図」を作製してくることであった。参考資料（山下，2002）を配付した。

## (2) 第2日目

**心理学への興味、心とは何か、大学のシステム** 台風の影響で午前中の受講者が少数であったため、第4コースと合同で行われた。受講者の疑問に答えたり、素朴なレベルで心について考える機会を提供した。

**部屋の五感の地図発表** OHCを用いて作成してきた五感の地図を発表させた。課題の部屋の「五感の地図」を作成してみて、どういう発見があったかについて質問した。

**方向音痴** 全体を2グループに分け、学部付近の大学構内の案内をした。同一のルート（ただし、片方は逆順に経路をたどった）について、一方のグループはランドマークのみ指示を出して歩き、もう一方のグループはランドマークだけでなく、ポイントとなる場所で方角を示し、さらに曲がり角において曲がる方向に左右の指示を出しながら歩いた。教室に戻ってきた後、各自で今自分が歩

いてきたルートの地図を描くよう求めた。また、「方向感覚質問紙」(竹内, 1990)を実施し、各自の方向感覚を評定させた。描かれた地図の中から、代表的なサーベイマップとルートマップを紹介し、それぞれの特徴について説明した。また、実施した方向感覚質問紙の得点と描かれる地図の特徴との関連や、「方向音痴」とはどのような人を意味するのか、また、道に迷わないためにはどうしたらよいのか、などについて解説した。さらに、子どもが加齢に伴って、どのように視点取得能力を発達させていくのかという問題に関連する、代表的な空間認知の発達研究も紹介した。以上のように、「空間認知」という観点から、個人がどのように情報を処理しているのか、そのプロセスを取り上げてきたことを実感させ、まとめとした。

**文章理解** ある文章を読ませ、何について書かれた文章であるかを考えさせた。例えば、「洗濯」という文脈が与えられれば容易に理解できる文章であっても、文脈がなければ何に関する文章であるかを理解することが困難になってしまうことを実感させ、文章理解における文脈の役割について解説した。

**4枚カード** 認知心理学の中の思考研究でよく用いられる「4枚カード問題」を提示し、4枚のうちどれをめくればよいかを選択させ、またその理由を尋ねた。4枚カード問題で陥りやすい誤りを紹介するとともに、人間の思考の特徴を解説した。また、4枚カードの発展問題であり、上述の文章理解における文脈の効果と関連する問題として、「飲酒問題」を呈示し、同様に解答の選択とその理由を求めた。飲酒問題の問題構造自体は、4枚カード問題と全く同じであるが、文脈が与えられたり、身近な材料が問題となったりすることで、より簡単に問題が解けるようになることを説明した。

**印象形成** 同一の人物に対する印象であっても、その紹介の内容の一部が異なるだけで全く違った印象が形成されてしまうことを実感させるために、Asch (1946)を参考に、ある人物に対する印象形成の実験を行った。全体を2グループに分け、それぞれゲストを紹介し、印象を記述させた。一方のグループには、紹介文の中に「暖かい」という言葉、もう一方のグループには「ちょっと冷たい」という言葉を入れ、その他の紹介内容は全く同一のものとした。それぞれのグループに対して、ゲストの紹介の後、自由にその人物の人物像を記述させるとともに、印象評定も求めた。全体が集合した後で、それぞれのグループが記述した人物像と両グループの印象評定の平均点の比較を行った。それぞれのグループがまったく異なる印象を形成したことを実感させた上で、印象形成にはどのような要因が影響するのかについて解説し、また、古典的な印象形成の実験を紹介した。

**文化に影響される認識** まず、「大きな木」の朗読を聞き、感想を書くよう求めた。次に感想文をもとに、物語の読者は物語の登場人物の気持ちを推測するとき何を手がかりにしたのか、登場人物の行為をどう評価したのか、「りんごの木」を誰にみたてたのか、という問いについて検討した。さらに、守屋 (1994, 2000)による研究成果を提示し、諸外国のデータとの比較を通して、文化的な視点から考察を行った。(文責：布施・難波)

### (3) 第3日目：身近にあるものから考える 一血液型性格診断一

2日間で、「ものの見方」はさまざまなことから影響を受けていることを知った。そこで3日目は、実際の生活の中からトピックを選び、それについての自分の考えを明確にした上で、様々な視

点から検討した。取り上げた例は「血液型性格診断」である。この「血液型性格診断」は、今日では日常会話に用いられるほど浸透しており、受講者にとっても身近である。また、受講者は青年期にあり、自分の性格に興味を持ちやすい時期であると思われる。さらに、「血液型性格診断」は日本の心理学研究に端を発しているが、その後様々な議論を引き起こしてきたため、資料が豊富である。以上のことから、受講者にとって「血液型性格診断」が、身近に興味を持って取り組める話題であり、多様な視点から検討するための教材として適切であると考えた。

第3日目は3部構成とした。以下に概要を述べる。

第1部 「血液型性格診断」を扱ったテレビ番組を見たり、同じ授業を受けている受講者の意見と比較したりすることで「血液型性格診断」に対する自分の考えを明確にした。また、どちらかという信じているグループと、どちらかという信じていないグループに分け、その理由について話し合った。さらに、一般的に出回っている「血液型性格診断」アンケートをブラインドで行った。その結果、必ずしも結果が自分の血液型と一致しているわけではないことや、印象のよくない血液型が存在することなどが確認された。この結果をもとに、「血液型性格診断」そのものだけでなく、話題にしたがる人についてどう思うか、その話題になった時どのような行動を取るのかなどについて、さらに意見を出し合った。

第2部 書籍・インターネット等から幅広い「血液型性格診断」や「血液型」に関する材料を提示し、ジグソー学習によって理解の促進を図った。“行動からその人の血液型が分かるか”、“血液型で性格診断ができるか”といった問いを投げかけ、グループ内でディスカッションを行った。意見や感想を伝えるだけに留まらず、“何故？”を考えるように助言した。その後、各グループで出された意見を発表させた。

第3部 第2部で提示した材料と異なる視点として、今日にいたるまでの歴史的経緯（血液型の発見、日本心理学会等での議論、高度経済成長期での復活、今日の心理学内での議論と、一般の話題）を概説し、同じ「血液型性格診断」であっても、様々な見方が可能であることを指摘し、まとめをした。

(文責：難波)

### 3. レポート

#### (1) 課題タイトル

「身の回りのことで関心のあることについて思うこと」

#### (2) レポートの構成について

レポート作成の手順を次の様に指示した。まず、関心のあるテーマを選び、テーマに関する「自分の見方・考え方」を書き留める。次に、そのテーマについて、インターネット、新聞、書籍、インタビューなど様々な方法ももちいて情報収集し、内容をまとめる。その際、資料の出典を明らかにするよう指示した。そして、収集した情報に接した後で「自分自身の見方・考え方」にどのような変化が起きたのか、どういった点に今まで気づいていなかったのか、それについてどう考えるかを中心に記述する。

#### (3) レポートの評価と批評

レポートのテーマとして選ばれたものは、ヤラセ番組や漫画についてのものから、携帯電話のメー

ル機能などの生活に密着したもの、万景峰号や児童虐待といった時事問題に関するものなど、幅広いものであった。また、心と体のつながりについて扱ったものや、迷信についてなど、心理学の専門的な知識にアクセスしようと試みたレポートもみられた。他に、先生という職業について目を向けたり、男女平等について検討することで、進路選択と関連して考察を深めたものもあった。

受講者の感想からは、様々な種類の情報に接することや、反対の立場の意見に耳を傾けることで、新たな発見があったということが窺われた。また、各自の取り組みの中で、「これまで一つのテーマについてじっくり取り組むということがなく、良い機会になった」という感想もみられた。受講者が現在の興味や自分自身について、じっくり向き合うことができたようである。(文責：難波)

#### 4. まとめ

3日間の集中講義を通して、心理学的な「ものの見方・考え方」の特徴を取り上げた。心理学研究をベースにした体験学習によって、日常生活では当たり前に見過ごしていることに改めて目を向けさせ、新たな驚きや発見を得ることができたのではないかと思われる。また、実際の心理学の学問分野で扱われているテーマが、受講者が素朴に描いている心理学のイメージよりも多岐にわたっていることを伝えることができた。知覚に代表される個人内の情報処理過程から社会や文化という広範囲にわたる事象が、心理学の研究対象として扱われていること、また、受講者自身を取り巻く身近な事柄が心理学の研究対象となり得ることを実感させることができた。これらのことを通じて、受講者がふと立ち止まって考える機会を提供できたことに意義があったのではないだろうか。ただ、天災とはいえ、2日目に参加できなかった受講者としては、受講内容にかなり差のできてしまったことが非常に残念である。(文責：難波・布施)

#### 引用・参考文献

- Asch, S. E. 1946 Forming Impressions of personality. *Journal of Abnormal and Social Psychology*, 41, 258-290.
- 板倉聖宣 1977 科学的とはどういうことか——いたずら博士の科学教室 仮説社
- Luchins, A. S. 1942 Mechanization in problem-solving. *Psychological Monographs*, 54, 1-95.
- 松田隆夫 2000 知覚心理学の基礎 培風館
- 守屋慶子 1994 子どもとファンタジー ——絵本による子どもの「自己」の発見 新曜社
- 守屋慶子 2000 知識から理解へ——新しい「学び」と授業のために 新曜社
- Marilyn, B. 1976 *The Book of Think*. The Yolla Bolly Press. (左京久代(訳) 1985 考える練習をしよう 晶文社)
- 清水龍郎 2000 ダイコンの観察(楽しい授業223) 仮説社 Pp.17-26.
- Silverstein, S. 1964 *The Giving Tree*. Harper & Row Publishers, New York. (ほんだきいちろう(訳) 1982 大きな木 篠崎書店)
- 竹内謙彰 1990 「方向感覚質問紙」作成の試み(1)——質問項目の収集および因子分析結果の検討—— 愛知教育大学研究報告, 39, 127-140.
- 山下柚実 2002 五感生活術——眠った「私」を呼び覚ます(文春新書) 中央公論新社